

令和3年度第1回旭川市スポーツ推進審議会 会議録

日時	令和3年10月6日(水) 午後6時5分～午後7時25分	
場所	旭川市神楽4条7丁目 道北アークス大雪アリーナ 多目的ルーム	
出席者	委員	7名(敬称略:五十音順) 大城委員, 荻野委員, 武田委員, 富田委員, 則未委員, 古川委員, 森峰委員
	事務局	5名 スポーツ課(高橋課長, 森田施設・合宿担当課長, 奥山補佐, 佐原主査, 松本)
欠席者	委員	3名 飯田委員, 池田委員, 永瀬委員
会議の公開・非公開の別	公開	
傍聴者	(1)市民 0人 (2)報道機関 0人	
議事	1 開会 2 議題 (1) 令和2年度スポーツ課決算概要について (2) (仮称)旭川市スポーツ推進計画について (3) その他 3 その他 4 閉会	
会議資料	資料1 令和2年度スポーツ課決算概要について 資料2 (仮称)旭川市スポーツ推進計画策定スケジュール(案)について 資料3 旭川市のスポーツ推進施策に係るSWOT分析について	
議事内容等	発言者	発言の要旨
1 開会	事務局	委員3名が欠席の旨を報告 委員1名の変更について報告 事務局新体制の紹介
	会長	会長挨拶
2 議題 (1) 令和2年度スポーツ課決算概要について	会長	議事第1号「令和2年度スポーツ課決算概要について」事務局から説明願う。
	事務局	(資料1に基づき説明)
	会長	ただ今事務局から「令和2年度スポーツ課決算概要」について説明があった。意見や質問等はあるか。
	会長	個人と団体から寄附金をいただいたとのことだが、今後も寄附金をいただける可能性はあるのか。
	事務局	通年生涯スポーツ振興費の中で出てきたバリアフリーウインタースポーツ交流事業で活用した寄附金については、個人から寄附の話があり、こういう事業をやりたいという提案をして、その結果600万円の寄附をいただいたものである。また、奉仕団体からも、たまたま寄附の話があり、100万円の寄附金を合わせてバイスキーとシットスキーを各6台、ポッチャを1セット購入した。今後もこのような機会が得られるよう、いろんな形でPRし、大型の寄附を活用してスポーツ推進を図っていきたい。
会長	寄附された方がバリアフリー関連のことをやってほしいと言ったのではなく、スポーツ課で提案して受け入れられたということか。	

事務局	<p>そのとおり。これまでもバイスキーを学校授業で使ってはいたが、相当老朽化していると聞いていたので、体育の授業を見ているだけでなく、できるだけ参加してもらって、使っていただきたいということで購入した。また、学校の利用に限らず、バイスキーの体験の場が広がればということで、この寄附金を活用して、支援者講習会と子どもたちの体験会を企画し、実施した。</p>
委員	<p>バーサーロペット・ジャパンは2年中止になっているが、負担金は必ず支出されている。それは組織委員会の方で管理しているのか。</p>
事務局	<p>そのとおり。市も組織委員会の構成員なので、負担金を支払っている。 経過を申し上げますと、令和元年度の大会は、直前の2月末にコロナにより中止を決定したため、費用はほとんどかかってしまっていたので、全額支出している。令和2年度は、当初の予算で3,850万円が市の負担金となっているが、主にバーサーの事業を担う事務局の人件費ということで、予算額で1,960万円、決算額で1,840万円を支出している。ただ、圧雪や当日の開催費用などはかかっていないということでこの金額になっている。事務局を維持するのにそれだけの費用がかかっている。</p>
委員	<p>1年目はいろいろ準備したが、2年目は準備してない。それでも、予算に等しいくらいの費用がかかっているのか。</p>
事務局	<p>通常であれば、人件費を2,000万円としている。事務局維持のためのものということで、バーサーがなかったため多少減額はしているが、人件費はすぐには減らせない。ただ、バーサーロペット・ジャパン歩み展ということで、イトーヨーカドーでバーサーの歴史を振り返る展示会を開催しているので、その分の人件費も含まれている。</p>
委員	<p>開催してもしなくても負担金の額は同じか。</p>
事務局	<p>開催した場合は、4,000万円近く市が負担する。開催しない場合は人件費というか事務局の維持費用として2,000万円弱を市が負担する。</p>
委員	<p>ということは、予算のときにはもう開催しないということで予算を組んでいるのか。</p>
事務局	<p>予算のときには、3,950万円の予算としていたが、途中で議会に減額補正の議決をいただいた。資料は、減額後の予算となっている。</p>
会長	<p>ハーフマラソンやバーサーの組織委員会の構成について、どのように選出されているのか。どこが主管しているのか明確にしていきたい。</p>
事務局	<p>簡単に申し上げますと、組織委員会は、行政と民間の様々な団体が関わって構成している実行委員会形式の組織である。ハーフマラソンの実行委員会は、道北陸上競技協会、北海道新聞社、旭川市、旭川市スポーツ協会が主催者となっており、様々な組織が入って構成している。バーサーの組織委員会は、スキー連盟関係、旭川市、商工会議所、スポーツ協会、観光コンベンション協会、北海道新聞社、旭川市教育委員会といった組織が入って構成している。バーサーは長い歴史と経緯があるので、いろいろな方に役員に就任していただいている。</p>
会長	<p>団体のイノベーションというか、ガイドラインも含めて少し検討するべきである。既得権みたいな形でずっと続いていて、開催してもしなくてもほとんど同じで、開催しない場合も2,000万円使っているとなると、市民スポーツとして捉えるのであれば、問題がある気がする。もし他の、例えば、国際化だとかそういうものに結びつけるのであれば、この負担金の予算を外して、バーサー大会やマラソン大会を開催して、スポーツ振興全体でみたいなのも、もう少し考える必要があると思っているが、今の私の質問としては、組織委員会の構成自体をやはり明確にしないと、組織は変わらないと思う。</p>
委員	<p>2番目の競技力の向上・競技人口の拡大・交流人口の促進のアスリート発掘・養成費について、令和2年度は、12月に養成講座を実施したということだが、具体的な中身を教えてほしい。また、今年度はどのような形で実施するか教えてほしい。</p>

事務局	<p>令和2年度のアスリート発掘・養成事業は、講習会を2回実施した。一つは栄養学に関するもので、対象は指導者を中心に、講師として、プロスポーツの栄養士と、道内で子どもたちにより良い給食を提供しようと活動している栄養士の方を招いて実施した。もう一つは、道内のフットサルチームのエスポラダのコーチを招いて、技術トレーニングという形で実施した。技術トレーニングと栄養学という形で実施したのは、前年度に競技団体に対しアンケートをとった中で、アスリート養成において、どのような講座が必要か聞いたところ、技術トレーナー、栄養学やボディコンディショニングトレーナーという要望が多かったため、1年目は、けがをしない体づくりということで、ボディコンディショニングトレーナーでプロ野球選手も教えている方を招いた講座を、2年目は栄養学の講座を実施した。</p> <p>コロナ禍でなかなか人を集めることができず、各学校、団体等への指導者の派遣もできない中、2回の講座を実施した。</p> <p>令和3年度も、コロナの影響でなかなか事業を実施できない部分はあるが、予定では、来月に民間団体によるスポーツ能力テストという形で、小学生を対象に、バランスや瞬発力のテストを実施する準備している。また、専門の方を招いて、栄養学やメンタルなどの講座を実施したいと考えている。</p> <p>また、予算上の取組ではないが、先ほど申し上げたボディコンディショニングトレーナーの先生方と、ホームページでボディトレーニング講座のようなものをアップできるよう準備を進めている。講座の内容は具体的な方針が決まってないので、この時点で詳細はお伝えできないが、こういった形で計画している。</p>
委員	<p>生涯スポーツ振興費は半分ぐらいしか使っていないが、施設整備に充てているわけではないのか。施設整備で予算が残った場合は、予算の残額は積立てられるのか。</p>
事務局	<p>決算をみると予算が残っているのではという質問だと思うが、予算は議会の議決を経ているので、例えば通年生涯スポーツ振興費で余った部分を、施設の改修に充てるということは、制度上できない。一般財源などの残った費用は、一度市の大きな財布に戻して、それをまた次年度使うことになる。スポーツ課としては、施設の老朽化が進んでいるので、いろいろなところを改修したいが、そういうシステムの中でやっているのだから、この予算の残額は、また来年度の予算で、財政部門と協議をしながら決めていくことになる。</p>
会長	<p>予算の残額はいったん戻すとしても、またその次の予算編成のときに、こういう状況があり、できなかった部分を補いたいということを強調して、予算を獲得することをスポーツ課には、ぜひお願いしたい。今、説明を受けたが、先ほどのアスリート発掘・養成事業も含めて、やはり具体的な中身がよくみえない。</p>
事務局	<p>アスリート発掘・養成事業の補足であるが、この事業は、もともと3年間の調査事業という形で実施している。実際は、講座などを実施してきているが、部活動や少年団活動など、いろいろな形で還元できるように、課題などをアンケートなども含めて、調査事業として実施した結果を生かし、検討・研究をしていきながら良い方向に進めていきたい。また、その中身が見えにくい部分というのも、一つの反省材料・課題として捉え、今後、進めていきたい。審議会も含めて、いろいろな形で御意見をいただきたい。</p>
委員	<p>アスリート発掘・養成事業について、市は、今年度、新たにどのような条件で実施しようとしているのか。そのために指導する人も当然探さなければならないと思うが、スポーツ人口を増やしていくための取組は何かあるのか。それとも、今までどおり新しいアスリートだけを発掘していくということか。スポーツもいろいろなスポーツが増えてきているが、その辺も恒常的に進めてきているのかお聞きしたい。</p>

事務局	<p>アスリート発掘・養成事業については、今、次年度の予算を検討している最中なので申し上げられないが、先ほど説明させていただいたとおり、3年間の中で行ったアンケートなども含めて今後に生かしていければと思っている。委員がおっしゃられたように、指導者の確保はいろいろな意味で難しいというのが課題として一つ見えている。</p> <p>また、日本スポーツ振興センター、JSCというところが、旭川で初めて、今年11月に忠和公園体育館で、希望者を集めてJスタープロジェクトという事業を実施するという話があり、予算を伴うものではないが、市としても協力する予定である。この先の話としては、例えば事業の中の一つとして、いろんなスポーツテストを実施しながら、そういったところにつなげていくとか、連携していくというのも一つの方法かと思っている。今は、アスリートの発掘・養成という形で見つけて育てるというイメージであるが、例えば道や国が実施する事業につないでいける場所があれば、事業自体はお任せして、特化をした部分、パーツパーツを市の方でやっていくということもできればということ考えていきたい。11月下旬に実施されるので、私も会場に行き、実際どういう形で実施するのか見てみて、競技力向上の新たな取組につなげていければと思っている。</p> <p>また、市としては、アスリートだけでなく他の部分も含めて、色々な事業の中で、一般的なスポーツ実施率などを含めて高めていきたいと考えている。</p>
会長	<p>部活動や子どもたちのスポーツ実施率の向上に役立てていきたいという話があったが、それが今、これからオリンピックが終わった後の動きである。国は第3期基本計画を策定中であるが、部活動の指導の在り方を変えようと考えている。外部指導者と、中学校・小学校を結びつけて、教員の負担を減らしながら、かつ地域の活性化も含めて、子どもたちのスポーツ実施率を向上しようというプロジェクトもあるので、そういった部分にも目を向けるべきだと思う。</p>
委員	<p>私は町役場でスポーツを担当していたことがあるが、予算の融通がきかないと疑問に思いながら勤めていた。例えば、予算を少ししか使わなかった場合、次年度は予算が落とされてしまうので、全部使い切らなければならないという話があり、疑問を持っていた。少ない予算でも、子どもたちに、いろんな楽しい体験させることもできるのに、一生懸命やっても少ししか使わないと、財政担当に必要ななかったと思われるのは残念なので、予算要求時にしっかり説明していたらありがたい。</p> <p>もう一つ、私は伊ノ沢スキー場のスキー指導員をしているが、子どもたちのスキー人口のエリア拡大という意味でも、伊ノ沢スキー場は、庶民のスキー場ということで、初心者からスキーに親しめるとても良いところである。回数券も信じられないくらい安いし、街からもとても近い。スキー人口が少ないので強くは言えないが、経費をあまりかけられないことは残念に思っている。市には、いろいろと精査しながら、北海道・旭川ならではのスポーツ振興ということを考えてほしい。スポーツの指導者にはお金をもらうことを度外視して、収入よりもやりがいという方や交通費程度でも協力してくれる方が沢山いると思うので、生涯スポーツの点からも、いろいろと考えていただきたい。</p>
事務局	<p>行政にいたときに経験された話かと思うが、最近では、予算の使い切りいう意識は大分なくなってきており、使わなかったお金は残そうということになっているので、決算額が相当少ないものもある。また、事業を実施する中で、削減できるものは削減しようと考えているが、今後もしっかり予算がつくように打合せしていきたい。</p>
会長	<p>事務局には、今回の意見を踏まえ、次回の審議会に生かしてほしい。</p>

(2) (仮称) 旭川市 スポーツ推進計画に ついて	会長	議事第2号「(仮称) 旭川市スポーツ推進計画について」事務局から説明願う。
	事務局	(資料2及び資料3に基づき説明)
	会長	<p>委員の皆さんに、旭川市スポーツ推進施策に係るSWOT分析における、旭川市の強み、弱み、逃してはならない機会・社会情勢、こういう社会情勢だから克服しなければならないという脅威について意見を出していただきたい。ここで、私は自分の意見を出そうと思って前もって予習してきたが、大事なものは各項目について考える前に目標を設定することである。例えば、スポーツ実施率の向上を目標にすると、旭川市の強み、弱み、社会情勢はどうか、好機か、危機かというところが出てくる。次に、その地域の活性化といった問題はどうか。それから、スポーツで世界につながるとした場合の目的は何か、それは、第2次旭川市スポーツ振興計画に4つの目標があって、それぞれの施策が書かれている。その4つの目標と照らし合わせながら整理していくと分かると思う。</p> <p>旭川市の強み、弱み、外部環境の機会、脅威について、私の方で整理してみた。</p> <p>スポーツインライフという、スポーツの生活化が目標であった場合、旭川の強みは自然環境が豊かなこと、弱みはコミュニティがあまり形成されていないこと、例えば地域スポーツクラブ、町内会といったコミュニティが弱みというふうに整理して、うまく活用すれば、外部要因として、ちょうど国が3期の基本計画を策定しており、審議会が始まり、9月に一つの方向性としての案が出ている。スポーツ庁からも、いろんな情報が出てきているので、それにうまく乗っていけば、eスポーツも含めて、旭川市で進めてきたものを含めてプラスになる。脅威としては、インパウンドの減少、コロナ、これをどう克服していくかということ。これは一つの例であるが、目標ごとに旭川市の強み・弱み、外部環境の機会・脅威を整理することによって、今後、新しい計画を策定していくときに非常に大事な材料になると同時に、第2次スポーツ振興計画の中にある、いろいろな施策をどうやって再点検するかということにも繋がる。</p>
委員	<p>旭川市のスポーツを活性化させるという視点で考えると、まず強みとしては、旭川市はオリンピック選手が非常に多く出ているということ。講演とか、いろいろやっていただいているが、そういう人材をうまく活用することができるのが強みだと思う。弱みとしては、非常にスポーツ施設が少ないこと。私は中学校の部活動を担当しているが、中体連を行うにしても、リアルター夢りんご体育館、忠和公園体育館、大雪アリーナ、武道館、サッカー場などあるが、いろいろな施設を使っても一遍にできない。バドミントンをやれる場所がないので、学校の体育館で細々という感じで非常にかわいそうな思いをしている。また、人材不足も弱みだと思う。教員の働き方改革ということで、中学校の先生が部活で非常に時間がとられて疲れている、それをまず解消するために、先生の負担を少しずつ減らすということで見直して、地域の人材を使った部活動というような動きになりつつある。そういう流れを考えていくと、今から地域の方で活動できる指導者を育成していくという、人材育成がやはり不足していると思うので、アスリートを養成するのも大事だが、スポーツ指導ができる人材の発掘ということも必要だと思う。機会としては、ウィズコロナの中でのスポーツ、スポーツ活動の拡大ということが大事だと思う。脅威としては、コロナ対策の中でどうスポーツと向き合っていくかということが今求められると思う。</p>	

委員	<p>強みは、スポーツを通して地域の活性化を図っていくという目標を立てたときに、旭川は自然環境が非常に良いこと。冬であればスキーができるし、夏であればマラソンができる条件が整っている。弱みとしては、私はスポーツクラブをやっているが、上川ネットでは5つ、北海道ネットでは76ぐらいのスポーツクラブが活動している。今、国が言っているのは、部活動をスポーツクラブでできないかということ。これ、何とかできないかということで、高校も含めてずっと話し合いがもたれている。実際やっているところはあるが学校の壁が高い。なかなか言うは易しでやるとすれば非常に難しい。今やっているところは、帯広、北広島市など。地域のスポーツクラブが目玉にしている、サッカーを中心にやっているスポーツクラブであれば、そこにいる指導者を活用するとか、ラグビーの凄い人がいれば、その人を学校の中に取り入れていくというふうには、要するに、コミュニティである。私たちは旭川市にスポーツクラブをどんどん増やしていったら、その地域に中学校区を中心としたスポーツクラブだったら、結構できると思う。難しいとは思いますが、その中で先生が毎日苦勞している部活動を地域で支えていけるような体制ができないかと思う。だから、機会とすれば今、国が出してきている部活動を地域でやっていけないかという動き。それを道の教育委員会か、スポーツ課の担当なのかかわからないが、やってくれたら嬉しいと思う。脅威としては、とにかく人口が減っていくという、少子高齢化である。何かやりたくても子どもが少なくて集まらない。指導者も高齢化しており、もっと若返りをしていきたいがなかなか難しい。せっかく旭川にも良いものがあるので、これをどういう具合にやっていったら良いのか私も悩んでいるが、スポーツクラブに入っている一員として考えることは、中学校区で一つのスポーツクラブをつくって、地域コミュニティでスポーツを通して地域の活性化を図っていく中に、うまく学校が入ってやっていければと思う。</p>
委員	<p>審議会開催前に、事前に資料3がもらえていたら、ある程度考えて皆さんから、いろいろな意見が出たと思う。</p>
会長	<p>事務局との打ち合わせにおいて、事前に送付するという案もあったが、内容的に難しい部分もあるので、審議会で事務局から直説説明をして、その場で意見を出してもらう方が良いのではということになった。このSWOT分析については、持ち帰っていただき、今日の他の委員の意見を参考にしてもらって、それぞれの立場で周りの方の意見も聞いて、後日、意見を提出してもらうこととしたい。</p>
委員	<p>各委員から意見を提出してもらった後、事務局でそれを整理して、資料3-(2)のように整理してはどうか。</p>
事務局	<p>平成30年の審議会で議論していただいた下地があるので、これをヒントに発想を膨らませていただき、事務局まで意見をお寄せいただければ、またこれを更にブラッシュアップして提供させていただきます。</p>
会長	<p>意見の提出方法について、皆さんの了解が得られるのであれば、それぞれのメールアドレスを教えてください、グループをつくってデータでやり取りするようにはどうか。</p>
事務局	<p>委員のほとんどの方のメールアドレスを把握しており、通常、メールで送る方と紙で送る方がいるので、御希望に応じて対応させていただきます。</p>
会長	<p>事務局として把握しているメールアドレスを、委員の皆さんに教えることはできるか。</p>
事務局	<p>了解が得られれば共有させていただきます。</p>
会長	<p>ぜひ了解をとっていただいて、共有すればもっと効率的になると思う。これからSWOT分析の作業をもっと進めて、進化させて、スポーツ推進計画の策定作業を進めていきたいと思うのでよろしくお願いいたします。</p>

(3) その他	会長	議事第3号「その他」について、委員の皆さんから何か情報提供などあるか。
	各委員	(発言等なし)
	会長	私の方から、ユーチューブで事務局職員とスキー体操の動画を配信したが、視聴率が上がらず難しいと感じた。文部科学省では、スポーツ庁長官が、自分でセルフテストとコンディショニングだとか体力づくりの動画を配信しているほか、国の第2期スポーツ基本計画を簡単にまとめた動画も配信しているのでぜひ見ていただき、今後の動向をつかんでいただきたい。
3 その他	会長	事務局からその他何かあるか。
	会長	委員の皆様からその他何かあるか。
	各委員	(発言等なし)
4 閉会	会長	本日の審議は全て終了とする。事務局から連絡事項はあるか。
	事務局	次回の審議会の開催は12月を予定しており、日程調整後、開催させていただきたいと考えている。会議の内容は、旭川市スポーツ推進計画や来年度予算について御審議いただく予定なので、よろしく願いたい。
	会長	以上で令和3年度第1回旭川市スポーツ推進審議会を終了する。